

【R6年度】建設分野における脱炭素技術のアンケート調査結果①

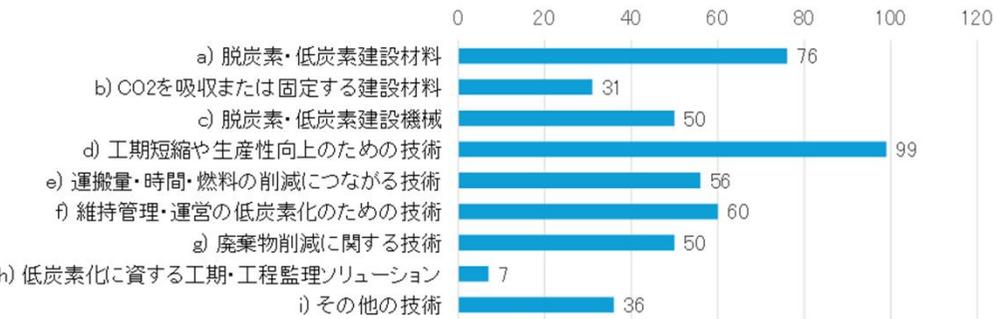
■ 「我が国の建設分野における脱炭素化・低炭素化技術に関するアンケート」を実施。
⇒ 令和6年9～11月までの間に123企業から335件の回答があった。

○低炭素化・脱炭素化技術の分類

⇒ 「脱炭素・低炭素建設材料」
・ 「工期短縮や生産性向上のための技術」
に分類される技術が多かった。

低炭素化・脱炭素化技術の分類

[件数,複数回答,N=465/335]

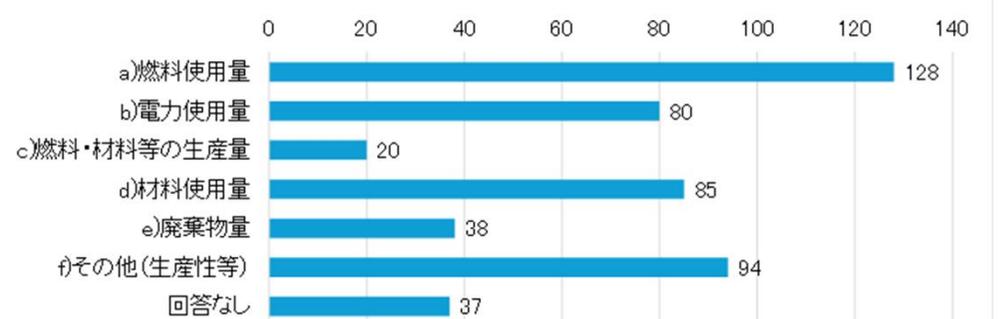


○低炭素化・脱炭素化技術の活動量の設定方法

⇒ 建設機械の稼働や材料製造等、幅広い対象の活動量の算定に適用されており、「燃料使用量」が多かった。

当該の脱炭素化・低炭素化技術の活動量は何の数量を対象にしているか

[件数,複数回答,N=482/335]

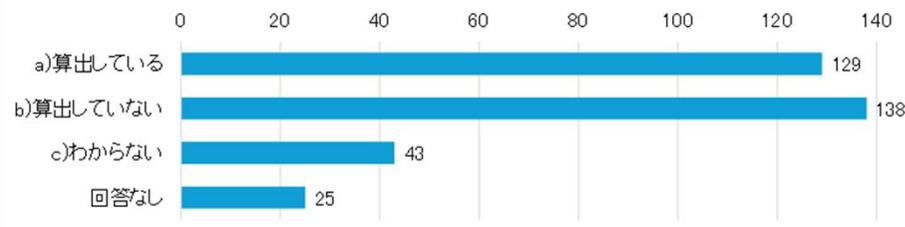


○低炭素化・脱炭素化技術のCO2排出量の定量的な算出

⇒ 「算出している」と「算定していない」の回答数が同程度であった。

当該の脱炭素化・低炭素化技術のCO2排出量を定量的に算出しているか

[件数,単一回答,N=335]



○低炭素化・脱炭素化技術の排出原単位の設定方法

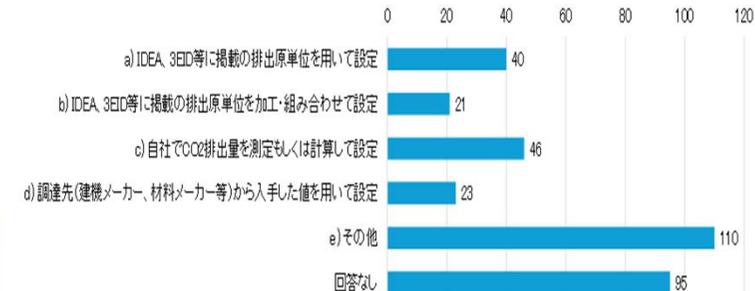
⇒ 「その他」を除くと、「自社算定」が多かった。
⇒ 「IDEA、3EID等に掲載の排出原単位を用いて設定」もほぼ同数で多かった。

○第三者認証の有無

⇒ 第三者認証を取得している技術は少なかった(8件) = うち、EPD取得は4件

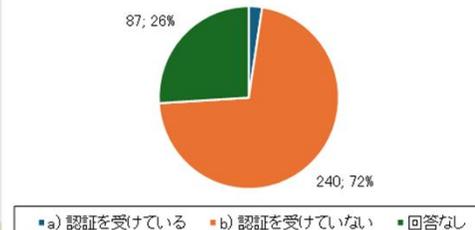
当該の脱炭素化・低炭素化技術は排出原単位をどのように設定したか

[件数,単一回答,N=335]



排出原単位はCFP-PCR等の第三者認証を受けているか

[件数,単一回答,N=335]



【R6年度】建設分野における脱炭素技術のアンケート調査結果②

○低炭素化・脱炭素化技術に置き換わる標準的な技術・工法等の活動量設定方法

⇒「自社の実数量」と「回答なし」が多かった。

○低炭素化・脱炭素化技術に置き換わる標準的な技術・工法の排出原単位設定方法

⇒「公表データベースの掲載値」と「回答なし」が多かった。

ともに「回答なし」が多いのは、削減効果や低炭素化・脱炭素化技術との比較について、定量的な評価手法が確立されていないためと推測される。

